

## 議 事 録

会議の名称	令和5年度第2回フラワータウン再生アクションプラン推進委員会
開催の日時	令和6年1月17日(水) 10時00分から
開催の場所	フローラ88 3階 フローラホール
出席した委員、アドバイザーの氏名	山添委員長、杉崎副委員長、赤澤アドバイザー、角野アドバイザー、水野アドバイザー、笹倉委員、山下委員、岡田委員、福井委員、出合委員(代理出席：富士小校区まちづくり推進協議会 岩橋副会長)、宮井委員、前田委員、西村委員、福本委員、青江委員、金澤委員、一橋委員、印藤委員
欠席した委員の氏名	高田委員
出席した庶務職員の職及び氏名	作倉都市政策室長、高寺都市政策室参事、交通まちづくり課：大脇係長、フラワータウン地域担当：西垣課長、都市政策課：徳田課長、門内担当課長、四ノ宮主幹、岡
傍聴者の人数	1人
議題	・報告事項：令和5年度のフラワータウン再生に向けた取り組みについて ・協議事項：フラワータウン再生アクションプラン Vol.02 について
公開・非公開	公開
使用した資料	・次第 ・資料：フラワータウン再生に向けた取り組みについて ：フラワータウン再生アクションプラン Vol.02 について
連絡先	まちの再生部 都市政策室 都市政策課 電話 (079) 559-5127 内線 2821・2822

### 1 開会

＜門内担当課長の司会により開会＞

### 2 配布資料の確認

### 3 委員長挨拶

### 4 会議の公開・非公開

### 5 議事録作成の取り扱い

### 6 議事録署名人選出

### 7 傍聴人の入室

### 8 報告事項：令和5年度のフラワータウン再生に向けた取り組みについて

### 9 協議事項：フラワータウン再生アクションプラン Vol.02 について

### 10 その他

### 11 閉会

＜事務局から資料に基づき説明：報告事項：令和5年度のフラワータウン再生に向けた取り組みについて＞

## 委員長

ただ今の事務局から報告がありました説明に対して、ご意見、ご質問等がある方は、名前を名乗ってから発言をお願いします。

## アドバイザー

今年度の取り組みということで、3点ご報告をしていただいて、特に1つ目の、フラワータウンフェスタ、グリーンスローモビリティというのは、引き続き取り組んでおられることが発展的に広がっていて非常に良いなという風に思いました。

また、まちづくりプレーヤーの発掘、育成というのは新しい取り組みで始められたということですが、こういった新しい人たちが関わっていけるような仕組みを作っていくのは非常に大切なことで、これが発展的に広がっていけば良いなと感じています。

3つ聞かせていただいて、これは後の話にも関係するかなと思っていたこととしては、やはり今後の課題としては、このフラワータウン再生という一つの大きな取り組みなわけですが、フェスタはフェスタ、グリーンスローモビリティはグリーンスローモビリティ、まちづくりプレーヤーの取り組みがバラバラで、これが一体的な取り組みだということ参加者側にはなかなか伝わりづらい部分もあるのかなと思っております。これを一体的なものだよという全体の発信を今後、是非、やっていけると良いかなという風に思いました。その上で、例えば、まちづくりプレーヤー、新しい人材発掘も、自分の趣味から始まってまちと繋がっていくという取り組みだと思えるのですが、これが発展して、例えば、フラワータウンフェスタの一部を担っていくなど、事業間相互のやり取りが生まれてくると非常に良いかなという印象を受けました。その辺り、もしすでにあるということであれば、その辺りも教えていただけると嬉しいなと思います。

## 事務局

フラワータウンフェスタ、それから、グリスロの社会実験につきましては、昨年度から、引き続き実施しているもので、アドバイザーのご認識の通り、昨年度から発展させているところでございます。それと、まちづくりプレーヤーの発掘、育成につきましては、今年度から始めた事業でございます。それぞれのイベントや取り組みがバラバラに動いている、繋がっていないと参加者の方に認識されることは危惧しているところでございます。我々としては、これらは全部繋がっているということ意識しており、例えば、フラワータウンフェスタでは、去年は、グリスロの乗車体験会を実施し、今年は車両の関係で乗車体験会はできませんでしたが、武庫が丘で実施しました実証実験についてのパネル展示を行い、相互の関係性が見えるような取り組みはしてございます。それと、最後の方にご意見ありましたけれども、まちづくりプレーヤーが自分の活動場所として、例えば、来年のフラワータウンフェスタに参画してみることについて現在も考えているところでございます。今年度から、フラワータウンフェスタでは既にまちで活動している住民プレーヤーの方々に参画していただいており、来年度は新たなまちづくりプレーヤーが参画、出店できればと考えているところです。

もう1つは、次の協議事項でも出てくる内容でございますが、兵庫県の企業庁が所有している、いわゆるリザーブ用地でございますが、現在更地となっております。来年度、そこで社会実験を実施しようと準備を進めており、まちづくりプレーヤーの活動の場としても広げられるのではないかと考えております。今、ア

アドバイザーにいただきましたご意見を参考にしながら、全ての活動、一つ一つの取り組みがフラワータウンの再生に繋がっていくというところを意識しながら進めていきたいと思えます。

#### アドバイザー

そういう意味で言うと、これまで地域でしっかり活動されてこられた、今までずっと頑張られてこられた方々も沢山おられるわけで、そういった方々とその新しい人たちも繋がっていけるような場もあれば良いなという風に思いました。

#### 委員

質問なんですけれども、グリーンスローモビリティの実証実験のご報告いただいた中で、20 ページのところに、おでかけカードを利用した人がどこに居住しているのかを調べましたというところで、下深田など、ニュータウン地区ではない方が 16 パーセントいらっしゃいます。ニュータウン再生なんですけれどもニュータウンだけ見るのではなくて隣接している集落地域の方も巻き込めるっていうのも良いことだなと感じるんですけれども、ルートを見ている限り下深田には行っていないような気がして、何で乗れたのかなという単純な疑問がありまして、もしこの周辺集落の下深田だけではなくて、上深田、池尻みたいなどころで周りの集落の方でニーズがあって、今は三田の方には行けるけどフラワータウンにも行ってみようかとなる機会に繋がるならグリーンスローモビリティの運行の考え方も少し変えていくとまた違う発見があるのかなと感じました。

#### 事務局

このおでかけカードの結果から周辺地域が入っているというところなんですけれども、下深田につきましては、武庫小校区ということで、同じ1つのまち協の中のエリアということで、下深田も運行ルートに入っております。今年の下深田のノアガーデン、ルーラーガーデンの中を通るようなルートを設定しておりましたので、下深田の方が利用されている人数が一定数出てきています。

#### 委員

ここはフラワータウンではないものの、同じように新規の開発地で、住所的には下深田という感じになるんだと思うんですけれども、そうではなくて、旧村地域、物理的にはそんなに遠くないけど、高低差があって、上がっていきにくいみたいなどころもあると思いますので、そういうところで、グリーンスローモビリティが力を発揮できる可能性があるとする、次回以降、もし考えられる余地があるならば、そういうところでも取り組めると良いのかなと思いました。

#### 委員

グリスロについて、武庫が丘で 2 回やらせて頂き、非常にありがたい機会だったと思っております。

1 回目で色んな模索をした結果を、2 回目に反映出来たことはすごく勉強にもなりました。

先ほど委員から出ました下深田は、1 回目は、住宅街の一番端のところをずっと通るだけでしたが、2 回目は若い街の下深田の中まで入ってグリスロ実証評価を集めてみようという考えで進めました。また、時間にもこだわって、できるだけ 30 分以内にルートを完結するような形にして、なるべく毎時 0 分か 30 分ぐ

らの分かりやすいスケジュールを組みたかったんですけども、それがやっぱりできなかつたんですね。40分ほどかかり、利用者の方からは少し分かりにくくなりました。今後の改善点ですね。

更に、1か月目の折り返し点で前半のレビューをして、問題点を抽出して、そこで後半の対策を取っていくことを1回目も2回目もやりました。2回とも後半ぐっと利用者が伸びる結果に結びつきました。最初企画して、途中で事業の見直しをした方が良かったと思います。

#### アドバイザー

まちづくりプレーヤーの件で質問ですが、実際におやりになって、大体20人ちょっとくらいがワークショップであったり、色んなことに積極的に関わってこられているのかなという風に数字が出ていますが、そういった方々のプロフィールは、一体、どういう人達なんですか。厳密でなくても、大体こういう年代とか。あるいは、こういうことに興味を持っている人とか、あるいはどこに住んでおられるとか、ざっくりで良いので特徴を教えてください。

#### 事務局

年齢層は様々です。ただ、ボリュームゾーンとしては、30代から50代までの女性が多いという感想です。居住地につきましては、大体が三田市内の方です。一部、神戸市北区の方も含まれておりますが、そこは仕切りを作らずに参加いただいています。ただ、活動場所としては、フラワータウンであることをご認識いただいて、集まっていたいただいているところです。

参加者の背景としましては、若い頃にこういうことをしたかったが、人生の様々な出来事の中で実現できなかったというような方が、今回の募集要項を見つけられ参加されています。今、アドバイザーがおっしゃっていましたが、最初に開催したトークイベントには40人から50人ぐらいの参加者があり、その後の4回連続で実施したワークショップには平均で23人が来られていました。この23人というのは同じ方が参加されています。その方々の中でも既に活動されている方がおられますが、そういう方々は、やはり昔にやってみたかったことができなかつたとか、やっとな今できるような生活スタイルになったのでやってみたくとか、そういう方が熱意を持って取り組まれているという状況でございます。

#### アドバイザー

ニュータウン再生の原動力になるような、きっかけになるような候補者として期待したいんですけども、そういった人たちがニュータウンの中だけじゃなくて周辺にもおられて、その人たちがニュータウンに来てくれるというので、周辺との繋がりという点でもうまくいけば良いなと思いました。

それから2つ目、11月のマルシェは20ブースで、具体的な中身として、結局やりたいことの中身はマルシェで何かやりたいという人が多かつたのでしょうか。それともこれはあくまでも発表の場であり、普段やりたかつたこと、やろうとしたことの活動報告の場としてマルシェの場が使われたのか、それともやっぱり私には何も起きなかつたみたいな話なのか、どうなんでしょう。

#### 事務局

その両面があると私は認識しています。この取り組みは、自分の趣味を通じてまずやっていきたいことから始めてみましょうということを主旨としており、小さな成功体験の1つとして、自分で出店をしてみると

いうところからこのマルシェを実施してみました。現実的には出店することや活動の持続性などを考えると商売とかお金の話とかが関わってきますが、今回はまず自分で一から出店の準備をして、商品を並べて、お客さんの相手をする、といった練習じゃないですけどもそういう試みを実施しました。私も当日参加しましたが、思いのほか多くの方が来場されており活気があったという印象でした。

委員長

それでは、ご意見ないようですので、本日の協議事項に移らせていただきます。

協議事項はレジュメにもございます通り、フラワータウン再生アクションプラン Vol.02 についてです。

それでは、その内容につきまして、事務局よりご説明お願いいたします。

<事務局から資料に基づき説明：協議事項：フラワータウン再生アクションプラン Vol.02 について>

委員長

今の内容について、ご意見、ご質問等、お伺いしたいと思いますが、かなりのボリュームでございますので目次の0番から5番の順番で限られた時間ではございますが整理をしながら進めてまいりたいと思います。

それでは、アクションプランの目次01のこれらの概要という項目でございますが、この中で、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

アドバイザー

6ページの新たな推進体制の構築というところがやはり一番気になっております。幹事部会の最後にご説明されたところでだいぶ理解が深まったんですけども、実現に向けた推進体制とありますが、「体制」と「事業」と「手法」が混在していて、整理された方が良いのかなと思いました。

その推進体制としては、やはりこのキックオフの2年間ではなかなか詰め切れなかったわけですけども、6年度以降という時に、今までのような三田市が中心となって調整をされていた委員会のような形で、情報共有の場として運営をされていくのか、それとも、本当に全体を動かしていくエリアマネジメント組織のような形で立ち上げていって、実際にしっかりとお金の話も含めて取り組んでいける自立的な組織としてやっていけるのか。それはここの部分では書けないかもしれないですけども、やはり本格的に今後、令和6年度、7年度と動いていく中でどこかでしっかりと確認と言いますか、決めていかないといけないのではないかなと思いました。

実は今、部会ごとに実行委員会、例えばモビリティでも実行委員会立ち上がっていますし、センター地区活性化推進実行委員会など、それぞれの部会別にしっかりとした体制が生まれつつあって、取り組みの実績はそういう部会ごとの体制に任せてしまって全体の話はその情報共有だけの部分でやっていくというような方法もちろんあるかと思います。ただ、そうなった時に、全体としてやっていかないといけない部分、例えば、情報発信などはどうするんだみたいなところは考えていかないといけないと思いました。

事務局

まず、ご意見の中でありました令和6年度以降の体制の主旨でございますが、これまでの2か年、令和4年度と5年度につきましては、この委員会も含めて市が主導で行ってきているところでございます。ただ、この6ページにも書いてございますが、令和6年度以降はこの委員会を解散いたしまして、現在の幹事部会をそのまま活かしながら新たな組織を作りたいと考えています。今年度からラウンドテーブル型としておりますので、市が主体的に進行しているわけではなく、別の第三者を招聘して調整役、ファシリテーター役として幹事部会に参加してもらい、会の企画、進行など全てやっていただいています。これについては継続していきたいと考えております。現在のラウンドテーブル型の幹事部会は、各部会での取り組みなどの情報共有、各部会の連携、調整という役割を担っておりましたが、来年度以降エリアプラットフォームになってもその部分を担いつつ、将来的には自立した組織となるように今後進めていきたいと考えております。いきなり来年度から自立した組織になることができるとは考えておりませんので、市も1プレーヤー、1つの主体としては参画しますが、ある程度の支援は必要になってくるだろうと思っております。

#### アドバイザー

そうですね、すぐにできるものではないので、やはり準備を進めていかないといけないということで、是非よろしくお願ひしたいと思います。あと一点だけ、瑣末なことかもしれないんですけども、今回新しく追加していただいた、まちのシーン、3ページ、4ページのところで、こういうまちになったら良いなというのを、イラストで示していくというのは非常に良いことだと思っております。ただ、内容が伝わりづらいつころがあります。例えば、交通手段のところ、利用目的に応じて選択できる交通手段があるまち、とありますが、グリスロの車両が小さく見えています、広場で子どもが遊んでいるようなイメージが大きく映ってしまっていることなど。表現に工夫をお願いできたらと思ひました。比較するわけではないんですけども、例えば20ページに国交省の挿絵があり、強調しすぎではあります、わかりやすい。交通の話であれば交通のこと、住まいの話であれば住まいのことであることが伝わるように工夫いただけたらと思ひます。

#### 事務局

このページのイラストにつきましては、人と自然の博物館を通して専門家の方に製作を依頼しており、このVOL.02を作っていくワーキングの中にも参加してもらい、意図を踏まえていただきながら製作していただいております。現在、お示ししています通りセンター地区や交通といったテーマ別にイラストを描いておりますが、アドバイザーのおっしゃる通り、書いている文言とイラストとの繋がりが薄い感じはあるかと思ひます。まちの中でこういうシーンをとということの表現は難しいところはございますが、またイラストを描いていただいている方と調整していきたいと思ひます。

#### アドバイザー

これはアクションプランなので、これから活動ベースにどんどん移っていくと思うんですけども、それに移れば移るほど、何のためにするかってことが分かりにくくなってきて、新しい住民の方と一緒にするとかいうことが、相互理解がしにくくなってきます。総じて印象としては、特に3、4ページを見ていると、行政計画に見えるという、多分これのままいくと行政がやるんだろうみたいになってくるような気がするんですよ。おそらく。左下の自分がやってみたいができるまちというところが自分事で、色んな活動が市民の

方と起こってくるわけで、それと行政の方々、事業者の方がやっていることを組み合わせるといったことが大事で、それをどう組み合わせたら良いのかといったような機能図みたいなものが必要だと思います。

4つの活動が、1足す1足す1足す1=4ではなく10になるためのプランであることを書かなければいけない。そのため、例えばフラワータウン全体の中で真ん中にあるセンター地区が何をすれば良いのか、他の活動との関係が分かるような機能図にしないといけないと思います。

それともう一点、まだ右下に出てきていない若年層、子育て層が移住定住しやすいまちのところは、イラストがまだなので強めに指摘しますと、ここも子育て層だけが来やすいまちではなかったはずなんです。色んな多世代の方が交流して良くなるまちということが再生ビジョンにも書いているし、しかも都市と農村両方共に交流することで良くなるというコンセプトも再生ビジョンには書いてあるわけです。少なくともバギーを押したお母さんと麦わら帽子の農家のおっちゃんが喋っているとかいう風な、こんなまちにしたいということが分かる、やることが絵になるんじゃないかとこんなまちにしたいという考え方が分かるような絵にしていればと思います。

## 事務局

今ご意見であったように行政計画に見えてしまう、行政がやってくれるんだらうなというように見えてしまうということについて、我々もそうは見せたくないと考えております。イラストを使用したり、先ほどアドバイザーのご意見にもありましたけれども、機能図についても令和6年から8年度の各部会での取り組み、テーマ別の取り組みでは使用しています。このVOL.02を住民の方あるいは民間企業の方が手に取った時に、見やすく、興味を持っていただけるような工夫はしていきたいと考えておりますので、ページの関係上どこまで表現できるかわかりませんがアドバイザーがおっしゃった行政と住民の組み合わせ、あるいはニュータウンと農村部の組み合わせ、そういうものも含めて検討したいと思います。ニュータウンと周辺の農村部との関係性でいいますと、3、4ページにあります下図（地図）は、フラワータウンのセンター地区がクローズアップされておりフラワータウンの中心部であることはよくわかるのですが、これだと周辺農村部が写っておらず関係性をイメージすることができないこととなります。このあたりジレンマもございますが、今後ご意見を参考としながら図郭の調整などを行いたいと思います。

## 委員

このニュータウンの中で学校の統廃合の話が進んでおります。現在、公表はされていませんが、今年の8月までの時点で、富士小学校と弥生小学校で一つの学校にしようということまでは進んできていました。

市長が代わられて、毎月のようにあった協議会も概ね半年が過ぎた先日、教育委員会から延期の案内があり、学校の統廃後の空き地をどうするかについては、フラワータウン再生の担当部署と話をしているため、もうしばらくお待ちください。という内容の案内をいただいています。私は統廃合後の跡地活用について取り組みが再開したと思っていましたが、本日の会議のテーマのVol.02にも挙がっておりませんでした。

私自身の考えでは、富士小にしる弥生小にしる相応のところに統合されるだろうと思っていますが、まだどちらの学校に統合されるのかが決まらないうちに公表できるものではないことも分かります。

非常にデリケートな問題ではありますが、今後、統廃合後の学校跡地をどうするかという内容のテーマだけでもVol.02の中に入れていただけたらと思います。ただ、現在は検討段階であること、そしてそれはその時の状況に応じて変化していくということを付け加えて述べられたらどうかと思います。地域住民の方々からは、この推進委員会では統廃合後の跡地活用について話が挙がっているのかと念を押して確認され

ています。学校は避難場所として残さなければならないといった意見や、スポーツ施設が欲しいといった意見など、色々と寄せられています。

また、これは教育委員会に言うべきことかもしれませんが、教育委員会は教育行政を担う組織としてこうあるべしというビジョンを持って取り組むべきではないかと思います。昨年8月以降、進展が見えていないため、もし庁内で調整等をされているのであれば一言でも良いのでテーマに入れておいてほしいと思います。いずれにしろ、学校の統廃合が先にありきですね。

#### 委員長

ナイーブな内容の話になりますが、その旨、また教育委員会の方にお伝えをすると共に、この表現方法については内部で検討させてもらいたいと思います。

#### 事務局

委員におかれましては、学校再編の地域協議会にもご参加いただいておりますので、内容についてはご理解が深いと認識しております。去年の8月まで学校再編の地域協議会が頻繁に行われていて、市長が交代して以降、少し動きが鈍っているという状況、我々も把握しています。

学校再編に関することについては、令和4年4月に公表した再生ビジョンにおいて触れています。内容につきましてはご承知おきの通り、学校など公共施設がその役割を果たして、必要に応じて跡地利用をする場合については、フラワータウンの再生に向けた土地利用を考えていきます、ということを謳っています。アクションプランは行動計画になりますので、具体的な取り組みを記載していくものになります。現在のところ、委員のご発言にもありましたが、どの小学校が廃校になるということが決定していない状況で、委員もご理解いただけるとは思いますが、VOL.02に跡地利用について記載することは難しいと考えています。

ただ、アクションプランにつきましては、今回のVOL.02にとどまらず順次更新していくことを想定しており、また新しいテーマも今後出てくるということも、Vol.02のロードマップにもお示ししておりますので、その時期が来れば必要に応じて記載し公表できればと考えています。

#### 委員

アドバイザーがおっしゃっていたように行政計画と見られるのはあまりよろしくないですし、事務局としてもそう思われたくないということでしたが、3ページ、4ページの赤文字で書かれている主語がすごく行政計画感を出しているのではないかなと思います。例えば、左下だったら、住民の、住民の、住民の、と始まるけど住民のと書いたらそれは住民じゃない誰かが言っているようになりますし、基本的にはみんなでやるので主語を一人称にするとかそういう工夫だけでも変わると思いますのでこのページに限らず他のところでも言葉選びをもう少し慎重にさせていただいて、住民の方が見られた時に私が参画できる余地があるんだと感ずる言葉選びにするだけでも変わるかなと思います。

#### 事務局

先ほどの繰り返しになりますが、これは住民の方、民間企業の方が手に取った時にいかに自分事として捉えてもらうか分かりやすく浸透するかということを考えてながら作成作業を進めています。おっしゃるように行政の人間が全て書いておりますので、このような表現になっておりますが、今ご助言いただきました内容については今後修正していけたらと思っております。



## 委員長

目次の1番、住まいの環境整備、9ページから18ページで何かございますか。

## 委員

17ページ、円滑な人口循環を誘起する住宅供給の検討っていうのがとても大事であり必要なと思っ  
ているんですけども現実問題として、三田で分譲住宅をウッドタウンで供給されたのは何年ぶりのみ  
たいな感じでテレビCMになるような状況の中で、民間事業者が賃貸住宅を供給するなんていうのは  
なかなか普通に考えると難しいのではないかと感じています。分譲で売り逃げできる状況でそれ  
でしたので、ここは逆に公的主体が役割を果たさないといけないようにも思うので、もう少し踏  
み込めて、それは別に三田市では公営住宅になってしまうので公的主体がもう少ししっかりと  
一般向けの賃貸住宅を作るということも必要だよみたいなことがメッセージとして発信して  
もらえたらなと感じました。

## 事務局

現在のフラワータウン内において分譲マンションを建設する敷地が残っておらず、センター地区  
でも企業庁が所有しているリザーブ用地くらいしか更地がないという状況でございます。リザーブ  
用地はセンター地区の中でも中心地に位置しており、住宅はどうかという議論はこれから社会  
実験を通じて議論を交わしていくことになると思っております。一方、賃貸住宅につきましては、  
なかなか民間事業者による運営は難しい部分があると認識しております、公的な主体がこの  
事業に乗り出すべきではないかというところは認識しております。

リザーブ用地の他にも兵庫県がセンター地区の中に土地を所有しており、そういう土地も含  
め賃貸住宅の立地について検討ができないかと考えておりますが、実施主体や敷地などについて  
現時点で具体的に記載してしまうとそれが独り歩きし、誤解を生む恐れがあることから慎重  
を期したいと考えています。

## 委員

今、委員と事務局でのお話の内容について、まずは兵庫県住宅供給公社の営業企画課長とし  
てお話しします。こういうまちづくりにずっと関わっておりますと物理的に人を増やすのはや  
はり住宅なんですね。ただ、分譲というのは結局人は一時増えるんですけど、その後また減  
っていきます。今の話としても分譲マンションは人が減っていますので、入居ハードルの低  
い賃貸住宅の必要性はともあるんだろうと思っ  
ています。

一方、組織としてお話しすると、我々住宅供給公社は正直言いまして税金でやりくりして  
いないで、私の給料も自前で稼いだ中でやりくりしているという、そういう組織の形になっ  
ています。

そのため、組織としてどうリスクを取れるかというところがポイントになります。例えば、  
昔は、特定優良賃貸住宅制度とか、今であれば地域優良賃貸住宅という制度がございま  
す。これは私がまだ頭の中で描いている話ですけども、こういう賃貸住宅の誘致を実現す  
る1つのきっかけとして、例えば、市が地優賃制度を作るなど、事業者を支援していけ  
ば委員の言われるように住宅供給公社でもリスク回避ができれば検討の余地が出てく  
るだろうと思っております。事業者が100パーセントリスクを背負ってくださいというの  
は、組織としては非常に難しい。

## 委員長

それでは、次、2番のモビリティのところ、19ページから28ページ。その辺りで何かございますか。

それでは、次、3番のセンター地区の活性化のところ。29ページから39ページのところで何かございますか。

## 委員

35ページの左上の関係図ですけれども、施設という表現が多くなっていて、個人が入る余地を感じられないのももう少し個人が入れるような言葉選びをすると良いかなと思いました。ここで目指しているのは、特に、今、具体的に取り組んでいるセンター地区の内容ではないですけど、自分事部会の中でも個人がまちで活躍するというような話をしておりますので、個人もこういうセンター地区に入っていける、介入できる余地があると分かりやすいように、もう少し工夫をしたら良いのではと思いました。

## 事務局

質問を質問で返すようで申し訳ないのですが、個人が介入、入れる余地というのは、個人でもできる施設や機能という意味でしょうか。

## 委員

センター地区活性化の部会のポンチ絵だと思うので、例えば、パブリックスペースのことも描いて、その中で個人が自分の活動を表現できますというのも1つかもかもしれませんし、商業施設と表現せずに個人の商業店舗と表現するのも一つかもしれません。色々ありますが、もう少し工夫しても良いかなと思いました。

## 事務局

理解しました。確かに、今ここに記載しているのは、施設、機能と言いますか、建物、用途と言いますか、そういうものを記載しており民間企業や事業者よりの表現となっています。おっしゃるように、パブリックスペース、例えば、公園であるとか個人が携われる場所というのは必要になると思います。それは追加修正していきたいと思います。

## 委員長

それでは次に移りまして、目次の4番、5番ということで、41ページから最後までです。その辺りで、何かございますか。

## 委員

49ページ、50ページ、まず、50ページのところで、まちのシーン、キャッチフレーズが自分のやってみることができるまちということが前の方でも出てきましたけれども、正直ちょっと違和感があります。全体として、こここのところの新たな取り組みの方向性が、新たなプレーヤーの発掘の部分も含めて、イベントであるとか、起業であるとか、そういう方向性がちょっと感じられていまして、私的には、この自分事っていうのはこれからも住みたい、住み続けたい地域を自分たちの参画で作るところにあったのではないかと理解をしていたので、そこが少しキャッチフレーズを含めて、違うのかなと思っているところです。や

はり、私的にはここは自分ができることで自分たちが住み続けたいまちづくりに参画をしていく、そういうイメージになるのではないのかと思っています。

それと、報告のところで、既存の住民自治組織であったりとか、プラットホームとしてのまち協といったものの位置づけですが、当然、プレーヤーとしては文字通りパーツみたいな形で図に描かれているのですが、本来であれば住民自治組織とかプラットフォームとしてのまち協というのはパーツじゃなくて主体としての位置付けを意識していただけるような書きぶりになった方が良いのじゃないのかなという印象を持ちました。

#### 事務局

50 ページに記載しておりますが、まちづくり自分事部会での目標は「自分のやってみみたいことができるまち」ということになっております。委員がおっしゃいました、住みたい、住み続けたいまちを目指すことは、まちづくり自分事だけではなく全体的に言えることだと思います。センター地区の活動についても、新モビリティの取り組みについても、もちろん住宅環境整備についても、全ての活動、取り組みがフラワータウンに住みたい、住み続けたいに繋がっていくと考えております。

もう1つ、まちづくり自分事部会では、まちづくりプレーヤー発掘だけではなく、都市施設の愛護活動であるとか、イベントへの参画であるとか、こういうことがフラワータウンの中でできる、自分たちのやってみみたいことができるまちにしていこうといったテーマを掲げてこれまでも取り組みをしてきておりますので、この目標について方向性は間違っていないと考えております。

#### アドバイザー

49 ページのところで、先ほどワークショップに参加したまちづくりプレーヤーは今年度に20人ぐらいいて様々な活動の芽が出てきていると説明がありましたが、今後新たに別の人を選ぶということだけではなくてその継続的な支援は育成していくというような、継続性を少し意識された文言があると良いかなと思えました。

#### 事務局

事業の名称が発掘、育成となっておりますが、発掘、育成したら終わりとは考えておりません。プレーヤーを育成していくには実際に活動しなければなりません。その活動場所を提供することも支援の1つと言えます。今年度に発掘したプレーヤーを第1期生としましたら来年以降に活動場所を提供し、並行して来年度にも新たなプレーヤーを発掘していきたいと考えており、今のご意見を参考に追加修正していきたいと思えます。

#### 委員

まちづくりプレーヤーという発想は非常に良いことだと思うんですけども、もうすでに、我々まちづくり協議会やいろんな団体がコミュニティセンターで長年活動をしています。団体を支えている人たちはまちづくりプレーヤーそのものなんです。こうした現場も見てもらって、そこからこうしたらできるとかの発想やノウハウ出てくるんじゃないかなと思います。

まちづくり協議会として色々な現場を見ていただくサポートもやらせていただきます。

## 事務局

武庫が丘のコミュニティセンターは、今年度から力を入れて、土日も開けられているとお伺いしております。私も土日開所のオープニング時に立ち寄らせていただきました。今、委員から発言があったように、既にコミセンの中で活動している方は、まちづくりプレーヤーそのものだというご意見、まさにその通りだと思っております。一方、新しいまちづくりプレーヤーについては、まちづくり協議会や自治会組織などの住民による組成団体とは別に、個人で何かやってみたいことがある人をまちの中で探そうという事業をやってきたところがございます。

コミセンの利活用につきましては、この Vol.02 中でも触れているところがございますが、現場でのやりとりや状況、こういうものを参考にしながらというご意見いただいておりますので、その辺りをまちづくり自分事部会や幹事部会の中で取り上げていただき、今後の取り組みに繋げていけたらと考えております。

## 委員

48 ページ、センター地区で開催されるイベントへの住民や民間企業の参画とありますが、3 章のところで、今回センター地区で社会実験をやっているということになっていますので、イベントの後に社会実験というワードを入れて頂けたらと思います。

## 事務局

社会実験の実施につきましては、センター地区の方で記載しておりますが、イベントだけではなく、社会実験にも参画を促進すべきではないかというご意見はその通りであると思います。先ほどの報告事項でもアドバイザーからも同じご意見がありましたが、住民の活動場所として、まちづくりプレーヤーの活動場所として、イベントあるいは社会実験は該当するところと考えておりますので、文言の修正をしていきたいと思っております。

## 委員長

意見がないようですので、協議事項については、これで終わらせていただきます。

次第の通り、本日の報告事項、協議事項はこれをもって終了させていただきます。

その他。事務局より連絡事項等ございますか。

## 事務局

ご協議ありがとうございました。それでは、事務局の方から連絡事項を申し上げます。連絡事項は3つございます。

まず、1つ目、次回、第3回の推進委員会の開催は年度末になりますが、3月25日月曜日を予定しております。後日、案内状を郵送させていただきますので、ご参集のほどよろしく願いいたします。

2つ目、本日も協議いただきました、アクションプラン Vol.02 について、本日の協議の中でも、ご意見をいただきましたが、他にもご意見あるいは修正点等があるという風に考えております。その部分につきましては事務局の方にお知らせいただきたいと思っておりますので、この後、今日明日以降になると思っておりますけれども、修正点、ご意見の募集という形で委員の皆様にもメールまたはファックスで通知をさせていただきますので、修正点、ご意見等ございましたらご記入いただきまして事務局までご返信いただけたらと思っております。編集の期限につきましては、修正期間、それから第3回委員会に向けた資料準備期間を考慮しまし

て、1週間程度、1月29日月曜日を締め切りとさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後、3つ目、お車でお越しの方、駐車券の処理済ませておりますのでお帰りの際に事務局にお立ち寄りください。以上、事務局からの連絡事項です。

委員長

それでは、最後になりますけれども本日の委員会のご参集、誠にありがとうございました。

これを持ちまして、令和5年度第2回フラワータウン再生アクションプラン推進委員会を閉会します。

以上